様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 １１ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ１６５９５

研究課題名（和文）小児期、思春期、青年期における多様な性心理発達とその支援

研究課題名（英文）Diversities and supports of gender/sexual development in children and adolescents

研究代表者
佐々木　掌子（Shoko, SASAKI）

明治大学・文学部・専任准教授

研究者番号：８０５７２１２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、１）小児期、思春期、青年期の性別違和を持つ当事者の性的自己の成長軌跡を検討すること、それと並行し、２）小児期、思春期、青年期の母集団のさまざまな性の諸側面の分散について基礎データを蓄積すること、3)それらを踏まえ、臨床的応用、特にどのような環境が整えられるべきかについて検討することを目的とした。１）のデータを取る中で学校環境の重要性が見いだされたため、３）の実証を行い、その結果が学会発表および学術誌への掲載として結実した。また多様な性の子どもを取り巻く環境に関する情報サイト作成などアウトリーチ活動も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の特色と独創性としては、これまで成人したトランスジェンダーの当事者に子ども時代を回想してもらった心理学研究はあったものの、子ども自身に協力を募った研究は、本邦初であるという点である。また、多様な性的ありようの中に病理をみいだすのではなく“成長”という観点からアプローチを試みている点が特徴的である。さらに、得た知見を積極的に関連の専門家や当事者を取り巻く環境にフィードバックをするよう努め、具体的な環境整備やサポート体制の構築に役立てようとしている。

研究成果の概要（英文）：The purposes of this study were 1) to examine the developmental trajectory of gender/sexual self-image in children and adolescents with gender dysphoria, 2) to accumulate data on diversity in various aspects of gender/sexual self-image in general population, 3) and to elucidate factors that should be considered in designing supporting systems for the individuals in needs in clinical, educational, familial and other settings. Finding the significance of school climate for transgender kids, it was conducted to do empirical experiment, then published paper and made a presentation for the academic communities. Furthermore, we did outreach for adults (the environment surrounding gender variant children and adolescents) via our website information.

研究分野：臨床心理学

キーワード：ジェンダー・アイデンティティ　性同一性　性別違和　性的指向　セクシュアリティ　性同一性障害　同性愛嫌悪　トランスジェンダー嫌悪

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

LGBT（Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender）という言葉が人口に膾炙するようにはなってきたものの、その心理発達や支援に関する実証データ、特に量的な調査については、日本には数えるほどしかなく、医療や教育の関係者も当事者の家族等周囲の人たちも、手探りの状態で関わりを模索している状態である。

これまで、申請者の手掛けてきた研究のトランスジェンダー協力者は成人以降であり、これら知見が小児、思春期、青年期の性別違和を持つ当事者にも汎用性があるとは言いがたかった。なぜならば小児の性別違和が青年・成人期に至っても持続する率は低く（Green,1987; Drummond et al., 2008; Singh et.al., 2012; Steensma et al., 2013; Wallien & Cohen-Kettenis, 2008; Zucker & Bradley, 1995）、思春期・青年期については、アイデンティティ探求の只中の発達段階にあり、そもそも母集団データにおいても、自己の性別の非受容が見られることがあるからである（斉藤, 1998；東京都, 1996）。したがって、ジェンダー・アイデンティティをはじめとした性的な自己形成を理解するためには、＜発達＞という観点を織り込んだ包括的把握をする必要があると考えられる。さらに、成人のトランスジェンダーのデータによって実証されていた、ジェンダー・アイデンティティに影響を及ぼす「周囲の環境」についても検討が必要である。

２．研究の目的

１）性別違和を持つ子どもを対象とし、性的自己の諸相に関する継時的変化を追い成長軌跡モデルの構築を行う。２）6 歳児～青年期までの母集団から協力を得て、性的諸側面の基礎データを収集する。３）それらを踏まえ、臨床的応用、特にどのような環境が整えられるべきかについて検討することを目的とした。

３．研究の方法

１）性別違和をもつ子どもの成長軌跡モデルの構築については、性別違和を持つ子ども本人及びその保護者に協力を依頼する。データ収集方法はインタビューと心理検査、独自開発した質問紙等である。２）母集団の基礎データ収集に関しては、幼稚園から大学までの各学年の幼児・児童・生徒・学生に学校単位で依頼し、幼稚園生と小学生については、一対一でのンタビューと心理検査、独自開発した質問紙等を、中学生以上については質問紙を実施した。３）多様な性を取り巻く環境の検討に関しては、多様な性の可視化と当然視が醸成される子どもの環境を形成しようとする学校に対し、性の多様性に関する授業前・中・後の質問紙測定を実施した。授業の効果を見るために、こうした環境をとくには意識していない学校を対象群として設けた。

４．研究成果

本研究は、１）性別違和を持つ子どもを対象とし、性的自己の諸相に関する継時的変化を追い成長軌跡モデルの構築を行い、２）6 歳児～青年期までの母集団から協力を得て、性的諸側面の基礎データを収集し、３）それらを踏まえ、臨床的応用、特にどのような環境が整えられるべきかについて検討することを目的としたものであった。

１）については、5 歳児からの数ケースについては経時的変化を追えているものの、統計的検定に耐えられる協力者数ではないため、国内シンポジウムや国際学会などで、ケースの詳細について発表し専門家との議論を深めるにとどまった。具体的には、第 113 回日本精神神経学会学術総会での委員会シンポジウムや第 42 回自殺予防学会でのシンポジウムにおいて口頭発表をした。また、インドのチェンナイで開催された 15th Asia-Oceania Conference for Sexology において“A case of early gender transition in Japan”と題したケース報告を口頭発表した。なお、GID（性同一性障害）学会では毎年、シンポジストとして登壇し、「心理発達課題からみた青年期と成人期」、「性別違和をもつ児童生徒の通学する学校との連携」、「評価尺度から見た X ジェンダー」、「ジェンダー・スペクトラムを意識した心理的サポート」と題した口頭発表を行っている。学術商業誌においては、金剛出版の「精神療法」に「性別違和を持つ子どもの心理的支援」を、金原出版の「小児科」に「小児の性別違和と性同一性障害：総論」とした総説論文を、医学の世界社の「ホルモンと臨床」に「性別違和をもつ子どもと周囲への心理教育」を、へるす出版の「小児看護」に「子どもの性的欲求と性同一性の発達」を、新興医学出版社の「モダンフィジシャン」に「ジェンダー・アイデンティティ（性同一性）をサポートするとは」を、診断と治療社の「小児科診療」に「子どもの性別違和：ジェンダー・スペクトラムの概念を小児科医へ」を、「小児保健研究」に「性的マイノリティの子どもたちの心を考える　- 臨床心理士の立場から　-」をそれぞれ執筆し、掲載された。本研究はいったん完了とはなったが、軌跡を追うためにも、統計的検定に足りうる協力者数を確保するためにも、今後も引き続き協力者を募っていく。

２）については、母集団データのため、１）と重ね合わせて今後学会発表、論文化を予定している。

３）の実証を行った。その結果は、The 31st International Congress of Psychology での発表および国内学術誌（教育心理学研究）への掲載として結実した。学術商業誌においては、ぎょうせいの「法律のひろば」に「『性の多様性』教育の方向性　－人権の視点から－」を、学校教職員が購読者である明治図書の「道徳教育」に、「『正しさ』に絡め取られないために（授業で LGBTs を扱う際の配慮事項）」を依頼され掲載されている。書籍としては金子書房の「児童心理

学の進歩　2018 年版」において、「特別論文Ⅰ 学校教育における「性の多様性」――中学校・高等学校を中心に）」を執筆し、掲載された。

　また多様な性の子どもを取り巻く環境に関する情報サイト（https://245family.jimdofree.com/）を当事者である子どもの周囲（大人）への啓発を目的として作成し、アウトリーチ活動も行った。このような信頼性のある情報サイト運営を行うことで、今後のさらなる研究協力とその結果の還元といった循環を目指していく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 82
２．論文標題 子どもの性別違和 ： ジェンダー・スペクトラムの概念を小児科医へ	５．発行年 2019年
３．雑誌名 小児科診療	６．最初と最後の頁 1707-1713
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 9
２．論文標題 性的マイノリティの子どもたちの心を考える - 臨床心理士の立場から -	５．発行年 2020年
３．雑誌名 小児保健研究	６．最初と最後の頁 124-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 6月号
２．論文標題 「正しさ」に絡め取られないために（授業でLGBTsを扱う際の配慮事項）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 道徳教育	６．最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 64
２．論文標題 中学校における「性の多様性」授業の教育効果	５．発行年 2018年
３．雑誌名 教育心理学研究	６．最初と最後の頁 313-326
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.5926/jjep.66.313	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐々木掌子	4．巻 41
2．論文標題 子どもの性的欲求と性同一性の発達	5．発行年 2018年
3．雑誌名 小児看護	6．最初と最後の頁 1372-1378
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木掌子	4．巻 39
2．論文標題 「出生時に割り当てられた性別にとらわれない子ども」をどう支援するか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 自殺予防と危機介入	6．最初と最後の頁 103-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木掌子	4．巻 39
2．論文標題 ジェンダー・アイデンティティ（性同一性）をサポートするとは	5．発行年 2019年
3．雑誌名 モダンフィジシャン	6．最初と最後の頁 472-474
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木 掌子	4．巻 60
2．論文標題 性差のメカニズム	5．発行年 2017年
3．雑誌名 心理学評論	6．最初と最後の頁 3～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24602/sjpr.60.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 63
２．論文標題 性別違和をもつ子どもと周囲への心理教育	５．発行年 2017年
３．雑誌名 ホルモンと臨床	６．最初と最後の頁 263-270
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 Sasaki, S., Ozaki, K., Takahashi, Y., Yamagata, S., Shikishima, C., Kornacki, T., Nonaka, K., & Ando, J.	４．巻 45
２．論文標題 Genetic and Environmental influences on Traits of Gender identity disorder: A Study of Japanese Twins across Developmental Stages.	５．発行年 2016年
３．雑誌名 Archives of Sexual Behavior	６．最初と最後の頁 1681-1695
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10508-016-0821-4.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 57
２．論文標題 小児の性別違和と性同一性障害：総論	５．発行年 2016年
３．雑誌名 小児科	６．最初と最後の頁 1311- 1318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 69
２．論文標題 「性の多様性」教育の方向性　－人権の視点から－	５．発行年 2016年
３．雑誌名 法律のひろば	６．最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 33
２．論文標題 性同一性障害の身体治療として男性ホルモン療法を選択しない一例	５．発行年 2015年
３．雑誌名 日本性科学会雑誌	６．最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 42
２．論文標題 性別違和を持つ子どもの心理的支援	５．発行年 2016年
３．雑誌名 精神療法	６．最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐々木掌子	４．巻 42
２．論文標題 セクシュアル・マイノリティに関する諸概念	５．発行年 2016年
３．雑誌名 精神療法	６．最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　6件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Sasaki, S.
２．発表標題 A case of early gender transition in Japan.
３．学会等名 15th Asia-Oceania Conference for Sexology（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名
佐々木掌子

２．発表標題
ジェンダー・スペクトラムを意識した心理的サポート

３．学会等名
第21回GID（性同一性障害）学会（招待講演）

４．発表年
2019年

１．発表者名
東優子、川端康雄、土肥いつき、佐々木掌子（以上シンポジスト）、康 純、中山浩（以上司会）

２．発表標題
「欧米と日本の比較からみた性別違和を持つ幼児・児童に対する対応」　委員会シンポジウム 23（性同一性障害に関する委員）児童期の性別違和への対応―世界の潮流と日本の現状―

３．学会等名
第113回日本精神神経学会学術総会（招待講演）

４．発表年
2017年

１．発表者名
藤原和希、原ミナ汰、ソニア・デール、池田官司、佐々木掌子（以上シンポジスト）、石丸径一郎（座長）

２．発表標題
「評価尺度から見たXジェンダー」　シンポジウム3 ： X ジェンダーって何？

３．学会等名
第20回GID（性同一性障害）学会（招待講演）

４．発表年
2018年

１．発表者名
Shoko Sasaki

２．発表標題
The educational effects of Gender and Sexual Diversity Classes on homophobia and transphobia for junior high school students.

３．学会等名
The 31st International Congress of Psychology（国際学会）

４．発表年
2016年

１．発表者名
佐藤俊樹・手代木理子・土肥いつき・佐々木掌子（以上シンポジスト）康純・舘農勝（以上座長）

２．発表標題
性別違和をもつ児童生徒の通学する学校との連携　シンポジウム 4：教育現場における性別違和を持つ児童生徒の現状と対応

３．学会等名
第19回GID（性同一性障害）学会（招待講演）

４．発表年
2017年

１．発表者名
佐々木掌子（長谷川奉延・石見和世・ヨヘイル（以上、シンポジスト）堀川玲子・大平光子（以上、座長））

２．発表標題
「北米の性分化疾患臨床と性同一性アセスメント」　多種職シンポジウム「性分化疾患を生きる子どもと家族を支えるチーム医療」

３．学会等名
第118回日本小児科学会学術集会（招待講演）

４．発表年
2015年

１．発表者名
佐々木掌子（坂田桐子・横田晋大・沼崎誠（以上、話題提供者、坂田は兼企画代表者）森永康子（企画者・指定討論者・司会者））

２．発表標題
「性同一性障害の遺伝と環境」　公募シンポジウム「行動におけるジェンダー差の起源」

３．学会等名
第79回大会日本心理学会

４．発表年
2015年

１．発表者名
佐々木掌子（齋藤利和・阿部 輝夫（以上座長）山本和儀・中塚幹也・松尾 祐美（以上シンポジスト））

２．発表標題
「心理発達課題からみた青年期と成人期」　シンポジウム 2：　青年期・成人期の GID に対する理解と支援

３．学会等名
第18回GID（性同一性障害）学会（招待講演）

４．発表年
2016年

〔図書〕　計5件

1．著者名	4．発行年
佐々木掌子（著）諸富祥彦・小澤康司 ・大野萌子 （編）	2020年
2．出版社	**5．総ページ数**
誠信書房	206
3．書名	
第4章 職場での悩み 11．職場における多様な性「実践 職場で使えるカウンセリング」	

1．著者名	4．発行年
佐々木掌子（著）日本学生相談学会（編）	2020年
2．出版社	**5．総ページ数**
学苑社	292
3．書名	
第6章 特別なニーズがある学生の支援 3．性的マイノリティの学生「学生相談ハンドブック 新訂版」	

1．著者名	4．発行年
佐々木掌子（著）河合優年・内藤美加・斉藤こずゑ・高橋惠子・高橋知音（編） 日本児童研究所（監修）	2018年
2．出版社	**5．総ページ数**
金子書房	236-255
3．書名	
児童心理学の進歩　2018年版（特別論文Ⅰ 学校教育における「性の多様性」――中学校・高等学校を中心に）	

1．著者名	4．発行年
佐々木掌子（著）、開一夫・齋藤慈子（編）	2018年
2．出版社	**5．総ページ数**
東京大学出版会	313
3．書名	
『ベーシック発達心理学』　第２章　遺伝と環境	

１．著者名 佐々木 掌子	４．発行年 2017年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 209
３．書名 トランスジェンダーの心理学 ： 多様な性同一性の発達メカニズムと形成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考